

## 特集に当って

筑波大学社会工学系 生田 誠三

この特集の意図は、応募要綱のなかに、あますところなくのべたつもりです。ただし、原稿の応募件数からしてそれを読まれていない読者もかなりいるかと思しますので、そういう方々のためにここにそのくだりを再録しておきましょう。

「自然科学、とりわけ物理学においてであります、ブリキの菓子箱などを使った簡単な実験道具を使って一見些細に見える現象を解明し、それが歴史の流れを変えるほどの概念、法則、分析・測定方法の発見の糸口になったことが数多くありましたように、日常の忙しさの中で見過ごされがちな暮らしのなかでの一見些細なOR的現象を、在来概念や手法にとらわれることなく、子供のような素朴な目と、詩人のような発想と、そしてORマン・OR研究者としての緻密さをもって眺め直すとき、あんがいおもしろい知見に到達するかもしれません。

1. タクシー相乗りにおける合理的割勘とは？  
 2. 異なる生活様式をとる親子3人が団欒する居間のレイアウトは？ 3. いつ、いくらぐらい、どの生命保険に加入するか？ 4. コストパフォーマンスが毎年いちじるしく向上するパソコンをいつ購入するか？ 5. 閉店間ぎわでの鮮魚の値切り方は？ 6. フィッシングでの寄餌のうまい蒔き方は？……等々。

これらは本社費の各事業部への配分、多目的問題としての工場のレイアウト、リスクの評価と管理、設備投資、資材購入における価格交渉、広告予算の適正な分散投資、といった現実の企

業経営の中で直面する諸問題とも密接に関連したもののばかりであります。

日常生活の中で直接われわれ自身の経験としてとらえる問題は、その構造が比較的単純であるが故に見通しがつきやすいという点で、それほど深いかかわりをもたない第三者的システムについてのことがらを考察するよりもはるかに真に迫った、そして責任のもてる分析が可能なはずで

このような、趣味、娯楽、ゲーム、スポーツ、家計、旅行……など、日常の暮らしのなかでお気づきのOR的問題を、多少の、そしておもしろくなるなら大胆な脚色を加えても結構ですので、……」

この特集のオーガナイザーとして、ここでひとつお詫びをしておかなくてはならないでしょう。それは、募集要領のなかで、何かおもしろいと感じた「OR的な現象」をモデル化し、すぐさまそこから何かおもしろい事柄が出てくるでしょう、などという性急なことを要求してしまったことです。その「現象」のなかにより本質的なことが隠されていればいるほど、したがって奥がより深ければ深いほどその本質はなかなか姿を現わしてくれないものです。そういう「現象」をむりに形づけ説明しようとする、かえって本質から遠のいてしまうことでしょう。そういう場合には、あまり化粧せず、むしろ記述的、文学的に有り体にのべたほうがよいと思います。そのほうが、それを読む第三者をより純粋な私たちで啓発することでしょう。ここに掲載の論説のなかにもそのようなものが2、3あります。本誌掲載の15件の論説のどれもが興味深いものばかりです。これを機に読者と本特集の執筆者たちとのあいだで議論の輪が広がっていくことを願っています。